

パラグアイ内政・外交報告（2021年3月分）
政治情勢

1 内政

（1）新型コロナウイルス感染症（COVID-19）関連

ア 9日、厚生福祉省は、感染者数の顕著な増加により、衛生上のレッドアラートを発出した。

イ 14日付け大統領令により、18日～4月4日の期間、夜間（20時～5時）の外出が制限された。（人の移動が多くなるイースター休暇中の移動の制限を意図したもの。）

ウ 新型コロナウイルスワクチン

(i) 6日、チリ政府から2万回分のワクチン（シノバック）が寄贈された。

(ii) 12日、アラブ首長国連邦政府から3000回分のワクチン（シノファーム）が寄贈された。

(iii) 22日、外務省は、インドより20万回分（コバクシン）及びカタールより40万回分（モデルナ）のワクチンの贈与を取り付けた旨発表した。

(iv) 29日、インド政府から寄贈された20万回分のワクチンのうち10万回分が到着した。

エ 台湾からの医薬品供与

20日、台湾は、ICU入院患者用の医薬品として、ミダゾラム3万4377個、アトラクリウム4万個を供与した。

（2）マッソレーニ厚生福祉大臣の辞任

5日、マッソレーニ厚生福祉大臣が辞任を発表した。コロナ感染拡大以降、厚生福祉省に予算を優先的に配分、増額しているにもかかわらず、医薬品・医療物資不足の状態が続いていることに対し批判が続いており、同大臣の辞任の意向は、辞任を求める決議案が上院で採択された翌日に表明された。同大臣の辞任により、ボルバ副大臣が大臣代行を務めることが発表された。

（3）政府を批判する大規模デモの発生

5日、政府の汚職とコロナ関連施策の不備に対する抗議から大統領の辞任を求めるデモが発生した。一部の挑発的なグループと警官隊との小競り合いから警官隊による催涙ガスとゴム弾発射に発展し、警官隊は騎馬隊も出動させて群衆を解散させた。

これを受け、6日、アブド・ベニテス大統領は国民に対しビデオメッセージを発出し、教育大臣、女性大臣、厚生福祉大臣及び官房長官を交代させること及びその他閣僚の交代についても検討すると発表した。また、大統領は、暴力ではなく対話を行い、困難な状況を乗り越えるための連帯を呼びかけるとともに、コロナ対策の医薬品及びワクチンの早急な調達を約束した。

（4）官房長官の交代及び厚生福祉大臣代行の大臣正式就任

8日、ビジャマジョール官房長官を交代させ、エルナン・フッテマン大統領

府法律顧問を官房長官に任命することが発表された。また、マッソレーニ前厚生福祉大臣の辞任後、大臣代行を務めていたフリオ・ボルバ副大臣を正式に厚生福祉大臣に任命することが発表された。

(4) 教育大臣及び女性大臣の交代

9日、政府は、ファン・マヌエル・ブルネッティ情報通信技術大臣を教育大臣に、セシリア・エステル・レスカノ・フローレス氏を女性大臣に任命することを発表した。また、ブルネッティ大臣が教育大臣に就任したことにより、フェルナンド・サギエル通信副大臣が情報通信技術大臣代行を務めることが発表された。

(5) 大統領及び副大統領に対する弾劾手続法案の否決

17日、下院においてアブド・ベニテス大統領及びベラスケス副大統領を上院における弾劾裁判にかけるための法案が審議され、反対42票、賛成36票、欠席2名により否決された（注：可決には出席議員の3分の2の賛成票が必要。）。

この結果を受け、国会周辺で否決に抗議するデモが発生した。一部の参加者が過激化し、コロラド党本部への放火、近隣商店の破壊などを行い、逮捕者が出た。今回のデモにより大きな損害が生じたことを理由にフランシスコ・レスキン国家警察庁長官が辞任の意向を表明し、アルナルド・ジュシオ内務大臣はこれを受理した。また、臨時の国家警察庁長官としてそれまで副長官であったルイス・アリアス氏が任命された。

(6) イタイプ二国間公団総裁代理の辞任

23日、上院において総裁就任に必要な票数の承認を得られなかったことを理由に、フェデリコ・ゴンサレス・イタイプ二国間公団総裁代理が辞任を表明し、後任にマヌエル・カセレス駐米大使が任命された。ゴンサレス前総裁代理は新たに大統領戦略顧問に就任し、イタイプ二国間公団に関する懸念に対処すべく助言すると述べた。

2 外交

(1) 大統領の第6回PROSUR臨時首脳会合への出席

16日、アブド・ベニテス大統領は、ビデオ会議形式にて実施された第6回PROSUR（南米の前進と発展のためのフォーラム）臨時首脳会合に出席した。大統領は、パラグアイを含む多くの国にとって、新型コロナウイルス感染症に対するワクチンの効率的かつ迅速な調達優先的課題であり、パラグアイがワクチンを迅速に確保できるよう、議長国コロンビアのドゥケ大統領及びPROSURの首脳陣にパラグアイに対するワクチン調達への支援を求めた。

(2) アセベド外務大臣のブラジル訪問

17日、アセベド外務大臣はブラジルを訪問し、アラウージョ外務大臣と会談した。両外相は、新型コロナウイルス感染症拡大に関する両国及び地域の状況を概観し、両国が連携を続けることを約束した。会談では、パラグアイの穀物

輸出に有益なパラナ川の水量調節、パラナ川に建設中の第二の橋（ブラジルのフォス・ド・イグアス市－パラグアイのプレシデンテ・フランコ市間）や、南米大陸横断回廊の一部となる、パラグアイ川をまたぐ橋の建設（プエルト・ムリーニョーカルメロ・ペラルタ間）など、両国を結びつけるインフラ事業の進捗が取り上げられたほか、安全保障や違法行為に対する取組みへの協力、メルコスール、米州機構、PROSURやベネズエラ情勢など地域の課題についても話し合われた。

（3）アセベド外務大臣のアルゼンチン訪問

18日、アセベド外務大臣はアルゼンチンを訪問し、ソラー外務大臣と会談した。両国は、協力関係を強化して現在の新型コロナウイルスワクチン不足の事態に対処することに同意した。また、アルゼンチンがパラグアイに対して負っている電力譲渡料金の負債や、ヤシレタ公団事務局のアルゼンチン側職員の欠員について意見交換した。さらに、アルゼンチン輸入監視システム（SIMI）やアスンシオン市とアルゼンチンのコンフルエンシア県の共有区間における浚渫工事の実施許可申請、河川荷物輸送に関する制限を主とする経済および貿易関係が検討された。地域情勢関連では、次回のメルコスール加盟国首脳会議がアスンシオン条約30周年を記念するものになることが確認され、米州機構（OEA）やメルコスール・EU間の協定が話題に上った。

加えて、アセベド外相は、今般のアルゼンチン訪問の機会をとらえ、バティア・インド大使（注：在アルゼンチン、パラグアイ兼轄）と会談し、インド製ワクチンの調達交渉を行った。

（4）大統領のメルコスール創設30周年記念首脳会合への出席

26日、メルコスール創設30周年記念首脳会合がビデオ会議形式で開催され、アブド・ベニテス大統領が出席した。大統領は、地域各国の新型コロナワクチン供給量は極めて低く、ワクチン調達に向けて団結し続けることが重要であると強調した。また、対話と尊重を通じた自由を支持し、考えの違いで分断させてはならず、連帯を続け、地域統合と発展を推進すべきと述べた。

3 要人往来

往訪：アセベド外相（ブラジル（外相会談）、アルゼンチン（外相会談））